

土壌医 藤巻久志

スイスチャード



栽培計画	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
冷涼地				○	●	●	●	●	●	●	●	●
中間地				○	●	●	●	●	●	●	●	●
暖地				○	●	●	●	●	●	●	●	●

○ 種まき ● 植えつけ ● 収穫



スイスチャード（ヒユ科フダンソウ属）

チャードとはフダンソウのことです。アカザ科に分類されてきましたが、DNAが決める新分類ではヒユ科になりました。ヒユ科の野菜にはホウレンソウやビート、オカヒジキなどもあります。

野菜が主に八百屋で売られていた時代、フダンソウは夏場の葉物として重宝されてきました。生産者と消費者がコールドチェーン（低温流通）でつながった現在は、夏でもホウレンソウや小松菜がスーパーに並んでいます。ホウレンソウや小松菜がいつでも食べられるようになると、フダンソウは泥臭いと嫌われ、ほとんど栽培されなくなりました。

ところが、20世紀末にカラフルで癖のないスイスチャードが日本に導入され、直売所や家庭菜園で人気になりました。葉の軸が赤、白、黄色、それらの中間色にも分



かれ、とてもきれいなので、観賞用として鉢植えや花壇の縁取りなどにも利用されています。

フダンソウは暑さにも寒さにも強いので、漢字では「不断草」と書きます。スイスチャードはプランタでも簡単に栽培できます。

深さ15cm以上のプランターに市販の培養土を入れ、条間15cmの筋まきにします。種は皮が厚いので、一昼夜水に漬けて十分吸水させてからまくと発芽が早まります。種が隠れる程度に覆土して、軽く鎮圧します。発芽するまで乾燥しないように、たっぷり水やりをします。

子葉が開き切った頃から、葉と葉が重なり合った場所を間引いていきます。間引いた物は、ベビリーフとしてサラダの色添えに利用できます。追肥は、1週間に1度、1000倍の液肥を施します。最終的に株間を15cmにします。

草丈が10cmくらいになった物から順次収穫します。取り遅れると、アクが出て筋っぽくなります。若い葉を摘み取り収穫もできます。

ホウレンソウと同じように、おひたしやあえ物、炒め物にご利用ください。

JAグリーン津店が教える！
スイスチャード
栽培のポイント



JAグリーン津店 城チーフ

〈間引き〉

双葉のときに1回、さらに本葉が4〜5枚になったときに収穫をかねてもう1回、計2回にわけて行うのが基本です。

また、種の性質上どうしても密集状態からの間引きになるので、そのまま普通に引き抜かず、小さなハサミで切って間引く方がいいでしょう。他の野菜のように根ごと引き抜くと、残したい芽の根を傷めてしまう可能性が非常に高いので注意が必要です。

〈追肥〉

外葉を摘み取っていくように収穫するならば、上記のような追肥をすることで収穫を長く楽しむことができます。

〈JAグリーン津店おすすめ資材〉

・防虫ネット
無農薬でも虫食いの無いきれいなスイスチャードが収穫できます。



・種
緑のものやカラフルに育つものがあります。



トウモロコシ

あなたも今日から 栽培名人

板木技術士事務所 板木利隆



栽培計画	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
露地栽培 (育苗)			○	●	●							
露地栽培 (じかまき)				○	●	●						

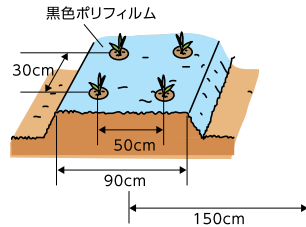
○ 種まき ● 植えつけ ● 収穫



もぎたての味を楽しむトウモロコシ

もぎたての新鮮な味は格別で、夏の家庭菜園の立役者、スタミナ源としても魅力です。糖分の多いスイートコーンの品種改良は急速に進み、平成の初めごろに比べるとビタミンB群やCが約1.5倍に増えている物もあり、栄養価の充実した健康食材になっています。イネ科の作物なので、野菜畑の連作障害を避けるための輪作に組み入れるにも好適です。

高温好み（適温は22〜30度）なので、十分暖かくなってから種まきします。関東南部以西の平たん地では5月上旬以降が良いでしょう。図のように黒色ポリフィルムでマルチをし、株間30cmぐらいに、1カ所3粒まきし、育つにつれて間引き、草丈17〜20cmになった頃間引いて1本立ちにします。

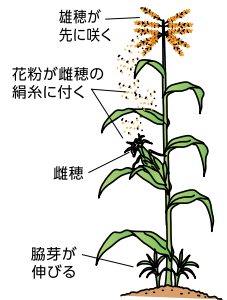


粒がぎつり付いた良品を得るには、雌穂に雄穂の花粉が十分に付くことが大切です。そのためには株数がある程度多く、1列植えよりも複数植えにしましょう。少ない株数で花粉不足が懸念される場合には、開花した雄穂の下辺りを手のひらで軽くたたいて花粉を散らし、下方の雌穂に付きやすくしてやりましょう。葉の働き（光合成）を良くするために、下の方から出た脇芽は取り除かないで葉数を多くします。また雌穂は上の方の一番大きい1

穂だけ残し、他の小さい雌穂は取り除きます。

追肥は草丈40〜50cmの頃と、

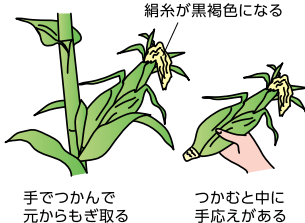
トウモロコシが育つ姿



先端の雄穂が出始めた頃の2回、化成肥料を与えます。施肥量の目安は、1株当たり大さじ1杯としますが、前作の残渣（さ）が多く、葉の緑が濃く旺盛に育っていたら適宜量を減らしてください。2回目の追肥の後、株元が小高くなるほど土寄せし、株元の不定根を多く伸ばし風で倒れるのを防ぎます。

収穫は絹糸の先が黒褐色に変色した（受粉後22〜26日）ころです。先の方まで十分膨らんでいることを確かめてからもぎ取ります。

近くに異品種があると、その受粉によって雌穂の粒に花粉親の形質が現れます。これをキセニアといいます。例えばあまり甘くないスイートコーンの近くで栽培すると、味や品質が著しく低下してしまいます。



交雑率は花粉親株と種子親株の距離が離れるほど低くなり、距離0.3mの平均交雑率は23%、10〜50mでは0.1〜0.3%と極めて低くなるという調査データがあります。参考にしてください。

※関東南部以西の平たん地を基準に記事を作成しています。

農業PR隊長カツラギ通信は ホームページで配信中!!

農業PR隊長カツラギ通信 検索

みてね!



カツラギ PHOTO GALLERY

